

地方創生 SDGs 金融調査・研究会(第 28 回)の開催結果について (概要)

○日時:令和 6 年 9 月 10 日 13:00-14:45

○場所:ハイブリッド(内閣府・オンライン)

○出席委員:村上座長、竹ヶ原座長代理、大久保(尊)委員、大久保(光)委員、太田委員、
金井委員、蟹江委員、重藤委員、千葉委員、富永委員

○議事総括:

① 地方創生 SDGs 宣言・登録・認証制度ガイドラインの改訂・確定版の公表に向けて

- ・ 事務局より、第 27 回地方創生 SDGs 金融調査・研究会を踏まえた修正案について説明があった
- ・ 委員からの意見は次のとおり
 - インパクト評価の実現という言葉が唐突に記載されており、地域事業者や地方自治体の方々には伝わらないのではないかと想定される。SDGs の実現・推進(インパクト評価)のような記載ぶりにするのがよいのではないか
 - 地方自治体や地域事業者にとってはインパクト評価を目指すということを理解することが難しいと想定。そこで、地方自治体や地域事業者に馴染みのあるロジックモデルについて冒頭で説明するのがよいのではないか
 - 「制度運用にあたっては、広域連携が促進されることが望ましい」という記載が、広域連携を実施することが前提のように感じられるため、広域連携が望ましい理由を先に記載してほしい
 - ロジックモデルに取り組んでいる金融機関は多くない印象であるため、地方自治体がロジックモデルに取り組むことで金融機関をはじめとしたステークホルダーに良い影響を与えられればよいと考えている

② 指標例(チェックリスト)の制定に向けて

- ・ 事務局より、指標例の作成の目的や集計結果についての説明があった
- ・ 委員からの意見は次のとおり
 - チェックリストという言葉に違和感がある。全ての評価項目を満たす必要があると解釈することも可能であることから、チェックリストという言葉を修正したい
 - 指標例とガイドラインの関係性について「指標例は制度構築を構築している自治体の中で評価項目を公表している全自治体において、実際に使用している評価項目を集約し、まとめたものである。これらを参考に、地方自治体によって指標例を取捨

選択し、自治体独自の評価項目を追加することが期待される」というような説明が必要であると想定

③ 先導的事例の調査・研究

- ・ 事務局より、先導的事例調査の目的や進め方、ロングリスト及びショートリスト、ヒアリング先選定の方向性についての説明があった
- ・ 委員からの意見は次のとおり
 - 金融機関との連携は必須であるため、特定の金融機関との連携が明示的である事例の中からヒアリング先を選定したい
 - ロングリストの中に記載はないが、本研究会において宣言・登録・認証制度は非常に重要であると考えているため、制度を活用した事例をヒアリング候補先に含めたい

○今後の展開

- ・ 次回第29回調査・研究会に向けて、本日の指摘を踏まえつつ、表明された意見を取りまとめ、検討を継続する